

新型コロナウイルスによる学級閉鎖等の基準の変更について

令和4年2月23日

潮見台みどり幼稚園

今週に入り、新型コロナウイルスの陽性報告が増え、現在、7クラスが学級閉鎖になっていることは周知のとおりです。臨時休園再開後の1週間は陽性報告がありませんでしたので、なぜ感染者が急増したのかは不明ですが、お子様だけではなく、ご家族の健康観察および感染予防の徹底を改めてお願いいたします。また、学級閉鎖が増えたのは学級閉鎖の基準も関係します。現在、文科省のガイドライン（次ページ参照）をもとに基準を設けておりますが、幼稚園の実情と乖離していることです。下線部分「②感染が確認された者が1名であっても、周囲に未診断の風邪等の症状を有する者が複数いる場合」となっておりますが、幼児は風邪症状が出やすく（特に鼻水）、コロナ禍においてはご家庭で健康管理を念入りに行ったうえで、少しでも症状がある場合は登園を控えていただいていることもあり、お休みする子どもや風邪症状（鼻水）の子どもが常に複数人います。そのため、1人の陽性が確認された時点でガイドラインの基準の②に該当してしまうため、学級閉鎖の措置を取らざるを得ないのが現状です。なお、この2月に文科省から学級閉鎖の基準を変更する旨の通知がありましたが、学級閉鎖の期間を「5～7日程度から5日程度へ」の小幅な変更にとどまり、その他の事項は従来のデルタ株の対応のままでした。

今回、学級閉鎖が相次いだことで、このままでは学級閉鎖を繰り返す恐れがあり、また、学級閉鎖に伴い、関係する教職員が多数欠勤することで、幼稚園の運営にも大きな支障が出ています。

そのようなことで、早急に学級閉鎖の基準を見直す必要が出てきたため、すでに学級閉鎖の基準をオミクロン株の特性を踏まえて、いち早く緩和した神奈川県立学校（神奈川県は私立幼稚園の所管）と横浜市立学校の基準をもとに幼稚園独自の基準を設けました。それぞれの教育委員会には直接、連絡を入れ、具体的な内容や運用についてアドバイスを受けました。また、所轄の保健所にも基準の変更について相談したところ、「学級閉鎖の基準について、保健所では指導する立場ではないため、幼稚園側で決めてもらって結構です」との回答でした。

基準を強化すれば感染予防に効果はありますが、幼稚園の運営に支障をきたします。一方、基準を緩和すれば、幼稚園の運営に支障は少ないですが、感染が拡大する恐れがあります。どこにラインを引けばいいのか難しいところですが、学校（児童、生徒）の新基準をそのまま幼稚園（幼児）に適用するには無理があるため、従来の基準とオミクロン株を踏まえた学校の新基準の中間にラインを引きました。このラインは今後の状況に合わせて変更する場合がありますが、現時点では、このラインが適当であるとの判断に至りましたので、なにとぞご理解をお願いいたします。

なお、この基準は、本日23日から適用となりますが、混乱を防ぐため、現在、学級閉鎖しているクラスについては、現行の基準どおりの学級閉鎖期間になります。